

基調報告 第46回釜ヶ崎越冬闘争勝利に向けて

【はじめに】

釜ヶ崎の越冬闘争は1970年の第一回から毎年闘い続けられ今年で46回目を迎える。屋外の現場で働く釜ヶ崎の日雇い労働者にとって夏の暑さとともに冬は最も過酷な時期だ。

アブレ地獄が深まり、多くの仲間が失業・野宿を強いられる中、仕事がまったくとぎれ行政の窓口が閉じられる越冬期は釜ヶ崎の矛盾が集中する。

こうした中で越冬闘争は冬の寒さから仲間の生命を支え合い、守り抜き、春からの闘いに向けた団結を創り出すという、いわば釜ヶ崎の闘いの「原点」ともいえる重要な闘いだ。

「仲間内の団結で一人の餓死・凍死者も出さな!」を合言葉に仲間どうしが支え合い仲間の生命を守り抜く闘いを最後まで団結してやり抜いていこう。

今釜ヶ崎で最も重要な課題は失業・野宿の問題だ。1990年代以降の釜ヶ崎の「大失業時代」深まるばかりだ。多くの仲間たちが失業・野宿を強いられシェルターを利用せざるをえず、又炊き出しの列にならばざるをえないでいる。「年越し派遣村」の闘い以降、釜ヶ崎の労働者にも生活保護の窓口が大きく開かれ多くの仲間たちが生活保護に移行したが、今だに多くの仲間たちは失業・野宿を余儀なくされている。

失業・野宿を強いられている仲間もそして生活保護に移行した仲間も願いは一つだ。「野宿をさせるな! 仕事をさせろ!」「だれもが働いてメシを喰える『しくみ』をつくれ!」これである。

こうした中、来年で5年間延長された「ホームレス自立支援法」は終了し、今年4月から始まった「生活困窮者自立支援法」に包摂される。この一般法への移行の中で、今までの様に失業・野宿を強いられている仲間の新たな切り捨てを許さない為にも「ホームレス自立支援法」のもとでの闘い、その成果と限界をしっかりと総括し、闘いの方向性を確率していくことが重要だ。

又、「センター建て替え問題」も大詰めにかけている。仲間の生命を守り抜く闘いの中で大いに議論を深めていこう。

【今年の越冬闘争の特徴】

大阪市の行う「越冬対策」は大きく変わろうとしている。唯一の施策である「臨泊」は昨年から地域内「臨泊」として行われる様になり今年「新シェルター」と「ケアセンター」を使って実施される。「臨泊」は「治安対策」上の理由から市内各施設での「分散型」から始まりその後は永らく「南港臨泊」として行われてきた。

「釜ヶ崎で年をこさせろ!」という長い間の闘いから見れば「一步前進」であり又、「新シェルター臨泊」のスタッフも釜ヶ崎労働者の「仕事」として作り出すことが出来るようになった。

しかし、行政の姿勢は変わっていない。その実施計画の中には長い闘いの中で「有名無実」化させた「40才以上」という年齢制限を相変わらず明記している。又、「臨泊」を必要としている仲間にも従来通りの「掲示」で済まそうとしている。更には12月29日の受付以降は一切対応しない内容となっている。この結果、少なくない数の仲間が今年も「臨泊」から締め出され野宿を強いられる。又、幸いなことに直近では野宿を強いられる仲間への死に至るような襲撃事件は起こっていないが、排除や嫌がらせは続いている。

こうした仲間たちの生命を守り抜く闘い、集団野営や炊き出し、医療パトロールをやり抜こう。更には釜ヶ崎への「封じ込め」を打ち破り各地へと人民パトロール隊を出撃させよう。

【戦争への道突き進む安倍政権打倒へ】

「パリ同時多発テロ」以降、アメリカを盟主とした「有志連合」はイラク・シリアへの「無差別爆撃を強化している。イギリスはシリアへの空爆参加を決定し、この間空爆に参加してこなかったドイツも「後方支援」として地上軍の派遣を決定した。又、政権交代したカナダもそうした決定を行う方向だ。アメリカ、イギリスも空爆に加えて地上軍の派遣を決定した。こうしたことが「同盟国(フランス)への集団的自衛権の行使」として行われる。

「立憲主義」を踏みにじり、憲法違反の「戦争法」を強引に成立させた安倍政権もこれに加わる道を開いた。そもそも中東の「不安定化」は第一次、第二次世界大戦の「戦勝国」のでたらめな「戦後処理」そして「イラク戦争」に見られる様に気に入らない政権を力づくで崩壊させたアメリカを盟主とした「有志連合」の責任だ。当然ながらいくら空爆を強化し地上軍を派遣しても問題は解決しない。そればかりか更に矛盾は深まるばかりだ。又、「有志連合」の国内でも反戦闘争が広がるだろうし、実際に始まっている。

元々はこうした抑圧された民衆や全世界の戦争に反対する人々と団結しイラク・シリアへの空爆を止めなければならない。不当な内政干渉をやめさせなければならない。

「戦争法」の成立によって戦争への道を開き南シナ海へのイージス艦を派遣し、軍事挑発を強めるアメリカにいち早く支持を表明し「自衛隊派遣」を口にする安倍政権を許してはならない。自衛隊の海外派兵を阻止していこう。

沖縄の仲間との団結を強め辺野古新基地建設を阻止し、Xバンド基地を始めとしたすべての米軍基地を一掃しよう。川内原発 1.2 号機の再稼働に続く高浜原発 3.4 号機の再稼働の目論み、原発輸出の策動を許してはならない。

米ソの冷戦構造と高度経済成長を基礎とした戦後の社会の「しくみ」は大きく崩れ始めている。

安倍政権による戦争へののめり込みはこうした動きを更に加速させ社会を壊していくだろう。こうした政権と対決し「原発も戦争(基地)も差別も失業・野宿もない安心して働き生活できる社会」をつくり出していこう。その為には「制度のすき間を埋める」闘いにとどまらず「新たなしくみ」をその闘いの中で作り出していくことが必要だ。釜ヶ崎では社会の「しくみ」から除外された中で「安心して働き生活できる釜ヶ崎」を目指して「新たなしくみ」を作り出してきた。「特掃」や「シェルター」更には炊き出し、夜回り、様々な形での仲間どおしの支え合い、そこでの「取決め」を作り出してきた。越冬闘争を通じて更にこうした「しくみ」づくりを進めていこう。

更には、あらゆる形で越冬闘争を支援し、釜ヶ崎に駆けつけてくれる仲間たちとの団結を深め共に「新たな社会」を目指していこう。

釜ヶ崎越冬闘争を団結して闘い抜こう!